

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		多機能型事業所 ポンプアップ			公表日	令和7年 3月 1日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6	4	部屋の使用時間を決めて、動状況に応じながら使い方を工夫している。また、少人数に分ける為にプレハブも利用している。	利用人数によっては、狭さを感じる。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	10	0		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5	5	・現在、車椅子等でバリアフリーを必要とする利用者が居ないが、今後の為にも、簡易スロープを検討する。	玄関や勝手口のバリアフリーではない。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	10	0	・活動室、学習室と分けられており、戸外にも活動できるスペースが設けられている。 ・清掃や消毒を徹底している為、清潔な空間を保つことができている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	8	2	プレハブを利用するなど、必要に応じて個別で対応できるようにしている。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	7	3	・年に1度、職員が各々で目標設定を行い、活動ごとの振り返りや業務の改善に取り組んでいる。 ・改善報告書の提出や、日々の話し合いで解決策を講じている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9	1	集計された評価を、全職員へ周知させている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	10	0	毎月の職員会議において、改善報告書を活用し、意見を出し合うことで方向性を決めていく。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	6	4	・いまのところ外部評価はないが、定期的な訪問と、地域の方々からのご意見は改善に繋がっている。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	10	0	・年間スケジュールの中に組み込まれており、内部、外部研修の機会を多くしている。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	10	0	3月にホームページをリニューアルのため掲載予定。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	9	1	事前に保護者や本人、関係機関などからのアセスメントで情報収集を行い、その情報を基にして計画書を作成している。	アセスメントツールが生活面がほとんどで、改善が必要と思われる。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	10	0		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	10	0	支援会議録を作成し、全職員へ周知して共有している。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7	3		アセスメントツールが生活面がほとんどで、改善が必要と思われる。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	10	0		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	10	0		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	9	1	名目は同じでも、活動内容を変化させることで飽きのない活動を行っている。	

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	10	0	個別の課題、集団での課題とそれぞれに合わせて支援をしている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	10	0		
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5	5	朝礼にて、前日の反省や振り返りを行い、情報共有を行っている。また、SNSツールを活用しての共有も行っている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	10	0	経過記録が行えるシステムを活用し、日々の記録を行っている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	9	1	年2回の評価を行い、支援内容の修正などを判断している。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	9	1		
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定を促す力を育てるための支援を行っているか。	10	0	見通しが持てるよう、利用者自スケジュールが立てられるよう工夫している。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7	3		
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7	3		
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	10	0	月間予定表や時間割を写真に収めることで、下校時間や送迎の調整を行っている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	6	4		相談事業所からの情報共有が多く、保育所等の担当者会議での参画の機会が少ない。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	4	6	現在、対象利用者が居ない。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	5	5	外部研修の機会を多く取り入れている。	地域の児童発達支援センターとの連携が難しい。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	4	6	公園や公共施設など地域資源を活用し、交流の機会を増やしている。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	2	8		
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	10	0	定期的な家庭支援やSNSツールを活用しての連絡などで、密に共有を図っている。	
35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	7	3	定期的な家庭支援やSNSツールを活用しての連絡などで、密に共有を図っている。		
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	10	0		
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	10	0	定期的な家庭支援やSNSツールを活用しての連絡などで、密に共有を図っている。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	10	0		
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	10	0	定期的な家庭支援やSNSツールを活用しての連絡などで、密に共有を図っている。	

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	8	2	保護者が参加できるイベントを開催し、保護者通しの関わりの場を提供している。	
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	10	0	ご意見を頂いた際には、すぐに職員間で検討会議を開き対応している。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	10	0	毎月、活動の様子や活動予定などが掲載された通信を配布している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	9	1		
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	9	1		
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	10	0	地域の方々を招待したり、老人ホームへ訪問するなど、利用者とのふれあいの機会を提供している。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	8	2	マニュアルに基づいた訓練を行い、模擬ではあるが保護者へ緊急時の連絡し、周知を図っている。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	10	0	PCBに基づいた実践研修を定期的に行っている。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	9	1	服薬がある場合には、予め投薬依頼書を記入していただくことや、保護者に薬情の提供をお願いしている。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	4	6	現在、医師の指示書に基づく程度のアレルギー対象利用者が居ない。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	9	1	安全計画に基づき、年間予定表に組み入れて研修や訓練を行っている。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7	3	定期的な家庭支援やSNSツールを活用しての連絡などで、密に共有を図っている。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	10	0	毎月、ヒヤリハットを提出して職員会議で議題として取り上げ、改善に繋げている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	10	0	定期的な虐待防止研修を行い、日頃から虐待防止に繋がるような支援を心掛けている。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	10	0	保護者にも事前に説明を行い、同意書を頂いたうえで支援を行っている。		